

使徒の働き 第9章 4節

「彼は地に倒れて、『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか』という声を聞いた。」

サウロ、後のパウロがダマスコ途上で聞いた主イエスの御声である。迫害者サウロに近づき直接、向き合って語られた主の御声である。これを聞いたサウロは聞いただけでなく、キリスト者を迫害する者から、主イエスを異邦世界にひたすら宣教するキリスト者となった。御声を聞いたゆえに、名を変えられ、歩みを変えられ、生涯の使命を与えられ、生き方が変わった。

サウロ、サウロ、の呼び掛けを幾度も思い起こし、窮地にたたされては、この出会いを告げている。思い起こす度に、パウロの胸に痛みがはしったであろうと思う。同時に、その痛みから知る主イエスからの恵みの語り掛けとなっていた。それだから、この出会いを困難な中であえて告げるのである。最初に路上で聞こえてきたときは、なにがなんだかわからなかったかもしれない。しかし、主イエスの証人として宣教旅行を繰り返すうちに、あの呼び掛けが、時を経ることによりパウロにとり深い恵みとして魂に沁み込んできた。

窮地で語れる、痛くも、しかし計り知れない恵みである。あの時の恵みが、時を重ねて深まる遅れて届く恵みの深まりがある。パウロの名をくり返し呼び続ける主イエスの恵みがある。

2023年3月21日